

# 論壇

## 子どもの未来をつくるために



衆議院議員  
塩崎 恭久  
自民党所属の衆議院議員。  
愛媛県松山市出身。「児童の  
養護と未来を考える議員連盟」  
会長

インタビュアー  
小木曾 宏  
本誌編集委員長/  
房総双葉園施設長

### 社会全体の問題として

小木曾 本日は、衆議院議員、「児童の養護と未来を考える議員連盟」会長の塩崎恭久先生にお話を伺いたいと思います。まず、塩崎先生が社会的養護の子どもに関心をもったきっかけについて教えてください。

塩崎 全養協第6代会長（平成7～10年度）の谷松豊繁さん（児童養護施設みどり寮「愛媛県宇和島市」の元施設長）を昔から存じあげておりまして。谷松さんが会長をやられていた時に、子どもの問題は大事なことから勉強しなさい」と言われました。最初はなかなかわからない領域でしたが、マスクミからも児童虐待などがクローズアップされていたこともあり、2001年頃、NAIS（根本匠、安倍晋三、石原伸晃、塩崎の頭文字）グループという政策研究の仲間で勉強を始めました。少し仲間を増やして深めようと、丹羽雄哉先生（衆議院議員）にお願いし、「児童養護を考える会」を発足していただきました。全養協の方たちと勉強会を行い、色々な話

れ、一人ひとりの子どもたちに十分な時間をかけて関わる余裕がないように見えたことです。後者の方が、限られた人数で生活しているということ、子どもと職員との関わりがかなり密に感じました。小木曾 私たちはとても厳しい労働条件のなかで働いているのですが、職員の姿はどのように感じられましたか。

塩崎 東京にある小規模な施設を見学した際に、職員のローテーション（交替制）が目まぐるしく、非常に忙しい様子でした。時には一人で大勢の子どもたちを見て、その日常の忙しさのなかで、愛着形成や発達障害、親などから重い心の傷を受けるなど重篤な課題を抱えた子どもたちのケアにあたっているのかと思うと、かなり負担がかかっているなという感じがしました。

小木曾 ここが一番の課題なんです。少子化のなかで虐待が増え、児童相談所も本当にもう日夜対応に苦慮しています。先程おっしゃったように児童養護施設というより、家庭の孤立化、また子どもの貧困問題、地域社会における子育て機能の低下、人員確保などの問題があります。施設に実習生が来てくなくても、過酷な労働だと言われてしまう人もいます。社会的養護関係の供給量が十分ではないと言っているのではないのでしょうか。塩崎先生が会長を務めておられる「児童の養護と未来を考える議員連盟」の目指すところとして、今後の取り組みや、活動の方向性など政治的な役割について教えてください。

塩崎 一つには、体制強化＝職員の配置への取り組みです。たとえば、保育所における待機児童解消のための人材確保対策として、保育士の処遇改善が図られました。私立保育所（認定こども園の保育所部分を含む）の保育士等を対象に、主任保育士一人につき月約1万円が上乘せされたのです。保育所の待機児童解消のための取り組みというだけではありますが、社会的養護の施設でも同じ保育士が働いているが、対象にはなっていません。先日、岩手にある保育所と乳児院を併設している法人に行きましたが、「保育所の保育士

を聞いたのですが、驚いたことに、当時虐待が理由で入所している児童は、すでに約半数という状況でした。これは虐待をする、される側の問題より、そういう状況を作りだしてしまう社会の根深い問題だと痛感しました。児童養護施設の入所児童は3万人弱ですが、これは氷山の一角で、保護されていない子どもたちがたくさんいる。それはとんでもないことだと直感したのが始まりでした。児童虐待問題は、それまでも耳にしていました。身近な問題として、正しく理解ができていなかったのです。かつてはいわゆる戦災孤児、両親の病气や死亡などの、どちらかと言えば外的要因からくる「家庭における養育機能の低下」「不適切な養育」が入所の主な理由だったということですが、今は、虐待という人間によって作られた心のねじれのようなものを抱えている子どもたちが多く聞いています。子どもたちだけでなく、親（保護者）の課題にも一緒に取り組まなければいけないと強く感じました。かつては例外的であったはずの問題が、今やどの家庭でも生じうる問題であり、この問題に取り組むということは、社会全体の問題に取り組むことだと思えました。

### 児童養護施設の現場から発信された課題

小木曾 児童養護施設をいくつか視察されたと聞きましたが、そこでのような印象を受けましたか。

塩崎 東京都や山梨、地元愛媛などの施設をたずねました。愛媛県松山市に、大舎制施設の隣に一戸建てを作り、小規模グループケアを実施している三愛園にも行きました。三愛園では、子どもたちの生活を見せてもらったり、子どもたちと一緒にご飯を食べたりと、生活の一部をのぞかせてもらいました。大舎制の施設と小規模ケアとの違いで感じたことは、前者ではたくさん子どもたちが一堂に会しても様々なことをして、職員の方は忙しく働き続けておられる印象を受けました。

### 子どもたちの未来のために

小木曾 最後に、社会的養護現場の担い手に対して、一言お願いします。

塩崎 子どもたちは日本の未来です。皆が未来に夢を持って、元気に生きていってほしいです。そのために現場の職員の方々にがんばっていただきたい。子どもたちの過去や今を受けとめ、彼らの一番近くにいる職員のみなさん一人ひとりが、明るく子どもたちの養育にあたってほしいと願います。そうすることで、子どもたちは明るく過ごせるのではないのでしょうか。そしてそのための、明るく元気になる環境づくりは、我々が考えて取り組まなければいけないと思っています。現場で一番苦労されている方々の声を、我々に発信して、聞かせてください。全国の施設の皆さんが、できるだけ地元国会議員を巻き込んで訴えてください。私としても、応援団が多いほうが心強く、今後の施策にもつながります。児童虐待や社会的養護の課題などに関心を持つ国会議員を、少しずつでも増やしていきたいです。

小木曾 塩崎先生たちのそのような活動が、私たちの支えになります。社会的養護は、光が当たりにくい部分でもあるので、よりよい現場になるよう努力していきます。本日は、お忙しいなか、ありがとうございました。